

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.658 ★「読書週間」ポスター完成(2頁)

定価 60円

会員の購読料は  
会費の中に含まれる



## 読書からだれひとり取り残さない 社会の実現に向けて

専修大学 教授

野口武悟  
のぐちたけのり

「読書週間」によせて

みなさんは、「本の飢餓」ということばを聞いたことがあるだろうか。このことばは、本を読みたいのに読めない状態にあることを意味する。現在、解決が急がれる国際的な課題のひとつである。

たとえば、視覚障がいなどのために通常の活字では読めない・読みづらい人にとつては、点字の本、音声の本、大活字の本、読み上げなどが可能な電子の本などが読書には欠かせない。しかし、こうした本を視覚障がいなどのある人が入手できる割合は、先進諸国にあつて7%程度、開発途上国にあつては1%にも満たないとされる。そして、入手の困難さは、大人よりも子どものほうがより顕著である。

「本の飢餓」の解決に向けて、世界各国でさまざまな取り組みが進められている。国際的な取り組みのひとつに「マラケシュ条約」がある。この条約は各国の著作権法にもとづく権利制限規定で複製(製作)された点字の本や音声の本などを国際交換可能とするものである。現在、日本を含む約90か国が加入している。

日本では、2019年に「読書バリアフリー法」が制定された。これは、「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与すること」を目的とした法律である。「本の飢餓」の解決を目指すとした法整備といつてよい。出版と図書館の双方に、読書

バリアフリーの取り組みを促している。

しかし、法律ができたからといって、「本の飢餓」がすぐに解決するわけではない。いまからの取り組みが重要になる。地域の公共図書館では、以前から「障害者サービス」に取り組むところはあつた。とはいえ、2017年度の国立国会図書館調査では「視覚障害者などに対する障害者サービスの実績が『確かに』あるといえる図書館は2割にも満たない」と指摘されている。出版をはじめ読書推進全般にも、似た傾向はないだろうか。この割合をどれだけ高めていけるかが、今問われている。

そのためには、次の3つが大切である。ひとつめは「知

ること」。「本の飢餓」の現状、それを解決するための読書バリアフリーの取り組みなど。ふたつめは「実践すること」。出版、図書館、ボランティアなど、どの立場からでも取り組めることが、なにかひとつは必ずある。それをひとつずつ積み重ねていくことが「本の飢餓」解決の大きな力となる。3つめは「伝え・広めること」。知ったこと、取り組んでいることをぜひ周囲に伝えて、理解の輪を広げていきたい。

私たちは、ついつい「だれかがやってくれるだろう」などと他人ごとに考えがちである。これまで、読書推進に携わっていても、読書バリアフリーはどことなく他人ごと、ということとはなかっただろうか。私たち一人ひとりが自分ごととして考え、実践していくことが、「本の飢餓」解決へのなによりもの近道といえる。読書からだれひとり取り残さない社会は、だれかが実現してくれるのではなく、私たちが実現するのである。



## 2022・第76回 読書週間 10/27～11/9

# この一冊に、ありがとう



## 読書を支える人たちへも 「ありがとう」

「2022 第76回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送していきます。

標語・イラスト募集に応募いただいた方、選考委員、デザインを担当したプラス・アイなど、すべての関係者に感謝いたします。

ポスターは6万2千枚を製作、全国の小・中・高校、公共図書館、

書店などに配布、掲出をお願いします。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関にも、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封し送付する予定です。

今年の標語は、「この一冊に、ありがとう」です。入選者の天野耕平さん（講談社）は、「読書で

心が震える体験は、なにもにも

代えがたい奇跡のようなものだと思います。そして、自分の未来には、そんな奇跡がまだまだたくさん待っているという、妙な確信もあります。本に関わっているすべての人に感謝を伝えたいです」と語っています。

ポスターイラストは、たしきとみさんの作品。「そつとありがとう。踊っちゃうほどありがとう。力強くありがとう。それぞれの想いと、そのものがたり、会えてよかった。心つながる世界ひろがる一冊に、出会えるゆたかな未来が、これからも続きますように」と作者のこころばをいただきました。それぞれの想いと物語？と思った方は、ポスターの下部分をよく見てください。かわいい小さな物語がギュッと詰まっているのが、おわかりいただけます。

進路に迷ったときに背中を押してくれた一冊、これさえ読めば泣いた子どもが笑ってくれた一冊、大切な人と知りあうきっかけ

なった一冊……。本にありがとうを言いたくなる、さまざまな場面を思い浮かべて、企画・展示を進めていただければと思います。

読みたい本を自由に手に取れることは、とてもうれしいことです。多彩で好奇心を満たす本が出版され、そんな本がそろった図書館や書店、学校図書館が地域にある幸せ。その環境を支えるすべてのみなさんへも「ありがとう」と言いたくなる読書週間となりますように。また、現在、本を自由に手に取ることが困難な方々への環境整備が進み、この幸せがさらに広がることを願います。

本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。また、電通の協力で新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組でも取りあげてもらおうと、努めています。

読書推進運動協議会ホームページ（<http://www.dokusyosyo.or.jp>）では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータ（別デザインもあり）のほか、図書館、書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しています。



・イラストレーション／たしきとみ  
・標語／天野耕平  
・デザイン／有原文絵（プラス・アイ）

## ■日書連 秋の読者還元祭

今年も抽選で図書カードを  
プレゼント！

日本書店商業組合連合会（日書連）は、「読書週間」初日の10月27日（木）から11月23日（水）まで、「秋の読者還元祭 2022」を全国の書店「還元祭実施書店のみ」で開催する。

この「還元祭」は、秋の「読書週間」にあわせて日書連と「本日」実行委員会が共同開催。期間中、実施書店店頭で掲示の応募ポスター掲載のQRコードから「図書カードネットギフト」は、

読者キャンペーンサイトにアクセスし、必要事項を入力して応募する。一部書店では書籍・雑誌を購入した読者に「名画しおり」を配布、しおりからもキャンペーンに応募ができる。抽選で、200

名に図書カードネットギフト1万円分、500名に3000円分、1500名に1000円分が当たる。

「図書カードネットギフト」は、

●日書連ホームページ  
<https://www.n-shoten.jp/>



実施書店に掲出されるポスター

## ■2022年度「絵本ワールド」

各地会場など詳細が決定！  
絵本と遊ぶひとときを

公益社団法人 読書推進運動協議会に事務局を置く、こどもの読書推進会議の主要事業、絵本ワールドの本年度開催地の概要が決定した。

・「絵本ワールドinこまつし」

9月18日（日）・19日（月）

会場Ⅱサウンドハウスホール（徳島県小松島市）

・「絵本ワールドinふくしま」

9月24日（土）・25日（日）

会場Ⅱビッグパレットふくしま（福島県郡山市）

・「絵本ワールドinひょうご」

10月8日（土）

会場Ⅱ須磨寺青葉殿講堂（兵庫県神戸市）

・「絵本ワールドin京葉（仮）」

10月8日（土）・9日（日）

会場Ⅱ城西国際大学東京紀尾井町キャンパス（東京都千代田区）

11月5日（土）・6日（日）



2021年「絵本ワールド in ふくしま」会場風景

会場Ⅱ城西国際大学千葉東金キャンパス（千葉県東金市）

・「絵本ワールドinいがた」

11月27日（日）

会場Ⅱ朱鷺メッセ（新潟県新潟市）（8月30日現在）

## ■「秋の読書推進月間（仮）」情報

出版社・取次・書店が協力  
「読書の秋」を盛りあげる

「読書の秋」に、新たな読書推進の取り組みが立ち上がることとなった。

「秋の読書推進月間（仮称）」（事務局Ⅱ一般社団法人 出版産業振興財団（J P I C））がそれで、

10月27日（木）～11月23日（水）の28日間にあたり、「第76回 読書週間」（主催Ⅱ公益社団法人 読書推進運動協議会）を皮切りに、11月1日（本の日）（主催Ⅱ「本の日」実行委員会）、「大切な人に絵本を贈ろう」などの行事を中心に、多彩なイベントが行われる予定。

現在のところ、



7月13日に開かれた「秋の読書推進月間（仮称）」発表記者会見

①キャンペーンポスター等に記載されるQRコードを読み取って、参加する「デジタルスタンブラリー」（コンプリートすれば、賞品や特典が当たる抽選に応募可）

②SNSに本に関わることを#（ハッシュタグ）付きで投稿してもらおうキャンペーン（①と同様、抽選に応募可）

③本好きな著名人を「Book Ambassador」に任命

④「SDGs本だなプロジェクト」子ども食堂などの施設で読み聞かせを定期的に行い、読書の習慣を養って、書架や本を施設に寄付

などが計画されている。

キャンペーンの正式名称は9月中旬以降に決定しだい、発表される。

また実施体制については、出版社、取次、書店や各業界団体が結集して、運営委員会と実行委員会を編成する。



## ■第55回 造本装幀コンクール表彰式

審査会、表彰式ともに  
3年ぶりに顔をあわせての開催

出版・印刷・製本・装幀・デザインなど、造本装幀に関わる人々の成果を総合的に評価し顕彰する「第55回 造本装幀コンクール」(主催 一般社団法人 日本書籍出版協会／一般社団法人 日本印刷産業連合会)の表彰式が9月5日(月)、東京都千代田区の日比谷図書文化館で行われた。

主催者挨拶は、小野寺優・日本書籍出版協会理事長、北島義彦・日本印刷産業連合会会長が述べた。審査総評で、浜田桂子審査員長は「3年ぶりに一同に会しての審査会を開催することができ、37点



「送別の餃子」装幀者の野田浩さんへ  
当協議会より賞が贈られた

の田中産業・田中裕さん(印刷・製本)、経済産業大臣賞「広告Vol.415 特集：流通」の篠原紙工・篠原慶丞さん(製本)、東京都知事賞「TAPESTRY」の一野篤さん(装幀)が、謝辞を述べた。受賞作品を含む全応募作品は、10月24日(月)～11月30日(木)に東京都千代田区の出版クラブライブラリーで無料公開展示される。入賞作品は、ドイツ・ライプツィヒの「世界で最も美しい本コンクール」に出品され、フランクフルト・ブックフェアで展示される予定。

## ■日本子どもの本研究会 全国大会

3年ぶりの再会！  
実践を、想いを共有した2日間

7月30日(土)・31日(日)、一般社団法人 日本子どもの本研究会の「第54回 日本子どもの本研究会 全国大会 未来をひらく子どもと本―たしかになつなかりをはぐくむ―」が、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

30日の基調報告は、同会会長の代田知子さん「『読むよろこび』をはぐくむ―ブックスタートから始まる子どもと大人の読書体験―」。

代田さんは、1967年創立以来の会の活動から、一度と戦争を



記念講演会場には、村中季衣さんの  
著作も展示された

起こさない国をつくるためには教育が重要であること、未来を担う子どもたちには「ことばをはぐくむ」異なる価値観との出会いを提供する「ヒューマニズム・正義感・ユーモアを培う」読書が必要であることを強調した。後半は、埼玉県三芳町のブックスタート、特別支援学級の子どもたちへの本の紹介などの実践活動を紹介した。

記念講演は、作家でノートルダム付属図書館長・児童学科教授の村中季衣さんの「絵本の読みあいから見えてきた物語の力―女性受刑者とかかわりを中心に―」。

村中さんは、初の官民協働刑務所・美称社会復帰促進センター(山口県)で実践されている、女性受刑者が対象の、読みあいを取り入れた矯正プログラム「絆プログラム」を紹介。「我が子に向けて絵本を読んであげたい」と自発的に手を挙げた6人の女性受刑者の記録から、このプログラムは単なる読書指導ではなく、人や社会との関係性を再構築し、社会復帰するために「本の力」を活用するもの



各研究部会の展示も3年ぶりに復活

であると説明した。

31日の閉会講演は専修大学教授の野口武悟さん。公共図書館におけるバリアフリー資料や多言語図書の現状を紹介し、だれもが読みたい本を自由、借りる自由を保証するために、図書館・出版社・ボランティアがそれぞれ、現状を知り、実践に生かして広めていくことが重要であると述べた。また「障がいが生まれる最大の原因は『戦争』と、バリアフリー実現のために平和を願った。

そのほか、各種講座、読書会、夜のつどい、分科会が2日にわたって開かれ、各会場で意欲的な発表や、意見が交わされた。

閉会のあいさつで代田会長は、「来年も、みんなで話しあいましょう」と再会を期待した。

■東京子ども図書館「知識の海へ」刊行

## 児童向けノンフィクションを紹介、 記念ブックトークも開催

公益財団法人 東京子ども図書館は、8月10日にシリーズ「児童図書館基本蔵書目録」の第3巻となる『知識の海へ』を刊行した。『児童図書館基本蔵書目録』は、これまでも子どもに手渡したい作品を厳選したブックリストで、これまで、戦後出版された絵本を紹介する『絵本の庭へ』、児童文学を紹介する『物語の森へ』が刊行されている。

1500冊を紹介する。はば広いジャンルの本をテーマ別、対象年齢別に紹介文をつけて掲載。26ジャンル、約1200項目のキーワードから本を探せる「件名索引」を用意し、展示やブックトークの組み立てのヒントとしても活用できる。

刊行を記念し、東京子ども図書館ではさまざまな催しを企画。第1弾として、『知識の海へ』1冊丸ごとブックトークを10月1日(土)にライブ配信する。本書の編纂を中心に担った、杉山きく子さんと、獲得久えみ子さん・土屋智子さんが、掲載図書を紹介しながら、刊行までの経緯やこぼれ話などを語りあう。2部構成で、Part1は本書を紹介、Part2は歴史・地理・自然科学の本を中心に知識の本の魅力を語る。

参加には参加費と事前の申し込みが必要。申し込み方法など詳細は、東京子ども図書館まで。  
<https://www.tcl.or.jp/>



広い世界を知りたい子どもたちの羅針盤となる『知識の海へ』

## 優良読書グループの歩み (9)

2021年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

### 七ヶ浜町おはなしボランティア「あゆみの会」

代表者 金子三千子

宮城県宮城郡七ヶ浜町

〈推薦〉  
宮城県読書推進運動協議会

中央公民館図書センターでのおはなし会(乳幼児対象の読み聞かせ会)のほか、町主催の生涯学習事業や子育て支援イベントへの協力や学校図書修繕などを行っています。おかげさまで、会の活動は、幼児、児童、生徒、教職員から非常に好評を得ています。

毎月定例会(勉強会)を開催し、会員が絵本を持ち寄り、おたがい読み聞かせの実践、手遊びの研修、会員相互の交流など、はば広く研



毎月の勉強会での情報交換が活動を支える

鑽を積んでいます。

また、設立当初より、毎月、会報「あゆみの会だより」を会員向けに発行しています。毎月の活動状況を写真を添えて掲載し、2021年5月からは毎月ふたりの会員が寄稿するなど、会員間の情報共有や自分たちの活動の動機づけ、モチベーションを維持するように努めています。

「あゆみの会」はこれまでの活動が認められ、2019年4月に文部科学大臣より「子供の読書活動優良団体」として表彰されました。同年に、公益財団法人伊藤忠記念財団の子ども文庫助成「子どもの本100冊助成」の贈呈を受けています。また、2021年4月には、「宮城県教育委員会協働教育推進功績団体」として、表彰されました。

今後は、これまでの活動をこれからも続けていくとともに、私たちの活動に賛同する会員を増やし、七ヶ浜町の子どもたちに読書の楽しさ、すばらしさを伝えることができるように、さらに精進していきたいと考えております。

町内小・中学校で読み聞かせを行いたいという会員の思いと、児童・生徒のために読み聞かせをしてほしいという学校側の思いが一致し、町内小・中学校での読み聞かせが始まりました。

「あゆみの会」は、来年10年目をむかえ、現在21名が在籍しています。七ヶ浜町教育委員会生涯学習課と連携し、すべての町立保育所、小・中学校での読み聞かせや、

## 浦安市図書館友の会

代表者 堀内真起子

千葉県浦安市

〈推薦〉

千葉県読書推進運動協議会

浦安市図書館友の会は、「図書館が大好き・本が好き・浦安が好き」という市民が集まって、楽しく交流しながら図書館についての理解を深め、浦安市立図書館を応援する会です。

発足のきっかけは、1992年に浦安市の「図書館ボランティア海外派遣事業」で、姉妹都市オランダへの使節団13名が選ばれ、派遣されたことです。オランダの図書館見学では、現地の図書館友の会の方々と交流しました。派遣されたメンバーの有志で1993年、浦安市立中央図書館開館10周年の年に「浦安市図書館友の会」が結成され、現在にいたります。

活動内容は、各地の図書館見学やイベントの開催、浦安市立図書館が主催する講座の受付や、ブックスタート絵本の包装など、図書館に関わる活動を行っています。会員外でも参加できる、「だれでも読書会」や、科学の本を使っ

た科学遊び、お雛さまを作る手作り会などを企画し、多くの人に本と図書館に興味を持ってもらえるよう多彩なイベントを行っています。また、年に一度の「館長を囲む会」のほか、図書館で行われている本の展示や、図書館が提供するブックリストの解説を、司書からうかがう機会を設け、浦安市立図書館への理解を深めています。

仲間と会えることが楽しみで、図書館を身近に感じながら過ごしていると、本もいつそう楽しめる気がします。コロナ禍では、オンライン読書会やバーチャル図書館ツアーを実施し、画面越しでも仲間と出会う時間を持ちました。緊急事態宣言発出中の2021年



コロナ禍でも工夫を凝らしてさまざまな企画を実施

夏、編集者の会員を講師に、「本にかかわる仕事を知らたい 編集者に職業インタビュー」を学生向けにオンラインで実施しています。

浦安市内の他団体（読み聞かせの会など）とも交流を持ち、また千葉県図書館関係市民団体連絡会にも参加しています。

仲間を大切にしながら、これからも常に開かれた会として活動していきたいと考えています。

## アポロ読書会

代表者 酒井カズ子

福井県坂井市

〈推薦〉

福井県読書推進運動協議会

1969年7月、人工衛星アポロ11号が初めて月面に着陸し、アームストロング船長の勇姿に多くの夢を抱いた瞬間、アポロ読書会は誕生しました。

その2年ほど前、会のメンバーは三国町主催の家庭学級講座の受講生で、同年代の子を持つ親でした。子が成長し、講座は閉講しましたが、すっかり仲よしとなっていた私たちは、ますます親睦を深めたいと、読書会を発足することになったのです。

この50年の間に、私たちを取り巻く環境や生活は目まぐるしく変化してきました。しかし、月1回の例会で、1冊の本を通じ、たがいに励まし、労り、討論し、家族とも違う絆を築いてきました。

現在の会員は8名で、毎月第2土曜日の午後に、三国図書館で例会を開いています。その月の当番者が本の中で印象に残った箇所を朗読し、感想を発表して、みんなで見聞交換をしています。同じ本を読んでも、人によって解釈の違いがありおもしろく、本を紹介することで、よりその人の考えが理解できるように思います。舞台となった土地の景色を想像し、愛でることも楽しみのひとつです。

ここ2年はコロナ禍で活動が思うようにいかないこともありましたが、以前は、合同読書会、文学散歩等のイベントへの参加、文集発行、図書館の古本市への協力などを行っていました。それらの活動が人生の糧となりました。

会員のひとりが作成した「アポロ会の歌」というものがあります。「アポロの会ってどんな会 本の好きな人達が月に一度集まって離れられない仲となる」(一部歌詞抜粋)。お座敷小唄のメロディで4番まであります。私たちにとつ

「アポロ会の歌」のとおり本好きが集まる



て、アポロ読書会は歌詞のとおり関係です。気心が知れているため、話しやすく、安心して心を開放できる場所です。

このたび、優良読書グループに選ばれたことが、長い活動の証となり、たいへんうれしく思いました。みんな、読書会を張りあいとしているため、これからも長く続けていきたい気持ちです。

最後に、長年にわたり幹事であつた炭田藤太郎先生に、この場をお借りしてお礼を申しあげます。先生が会の基礎を築いてくださったおかげで、長い間、続けることができました。また、三国図書館のみなさまのご支援にも、感謝申しあげます。



## 絵本の会「ゆきんこ」

代表者 前原 寿子

広島県神石郡神石高原町

〈推薦〉  
広島県読書推進運動協議会

1999年、旧神石郡油木町（現在 神石高原町）シルトピアカレッジ図書館の呼びかけに絵本好きの16人が集まって、読書ボランティア「絵本の会『ゆきんこ』」が誕生しました。町内外の小・中学校や保育所などで読み語りをを行うとともに、シルトピアカレッジ図書館の児童書のコーナーで幼児を対象に「絵本のお話会」を月2回のペースで開催しています。

また、年に一度の「図書館祭り」は全員で取り組みます。出しものを考え、練習を重ねて紙芝居や大型絵本などを使って、楽しい時間を過ごせるように工夫しています。『おおきなかぶ』のお話なしでは、かぶや登場人物の人形を自分たちで作って演じると、子どもたちは大喜び！楽しい「図書館祭り」になりました。残念ながら、この2年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。毎月の例会では会員の力量を高

めるため、講師を招いて読み語りの基本やブックトーク、ストーリーテリングなどの研修を行っています。先進地の視察や他のグループとの交流を通じて技術の向上に努めています。

「絵本の会『ゆきんこ』」は活動を続けて22年になり、新しいメンバーも加わり、活動が深まっています。しかし、発足当時からメンバーは高齢化し、退会する人もいるため、今後の活動をどう維持していくかが課題です。楽しい研修会や交流会を開いて「私もゆきんこに入りたい！」と思ってもらえるように工夫できたらいいなと考えています。小・中学生の保護者には私たちと一緒に学校で



『おおきなかぶ』は子どもたちも大人気！

の読み語りをしてくれるボランティアが何人もいます。その方々も含め学習会も行っています。

「ゆきんこ」のすべての活動は無理でも、親や祖父母として子どもへの読み語りを積極的にしている方々と日ごろからコミュニケーションをとるにより「ゆきんこ」の活動にも理解が深まればいいと感じています。同時に、図書館との連携も大切にして、さまざまな絵本をみんなに届けられるよう、活動していきます。

## 久米島町手話サークル「くめしゅわ」

代表者 安里 友希

沖縄県島尻郡久米島町

〈推薦〉  
沖縄県読書推進運動協議会

久米島町教育委員会主催「やさしい手話教室」の受講修了者が集まり、2010年よりサークルを結成。島内の保育園、幼稚園、保養施設などに出向き、手話を使ったりさまざまな発表を行うなかで、手話での読み聞かせを行うようになりしました。

今年度のサークル登録者は17名。月に2回 社会福祉協議会の会議室を利用して、手話の学習な



参加者も手話で読み聞かせに参加する

どを行っています。おもに代表者が関係団体と連絡しあい、そのつど、メンバーに連絡調整をして連携を計っています。2012年度からは、社会福祉協議会「赤い羽根事業」の助成を受けています。読書活動では、子育て支援センター、保育園、幼稚園、保養施設などでの読み聞かせをしています。絵本だけでなく、音楽（手話歌）を取りいれたり、ペープサートを準備したりして、ふだんはなじみのない手話に興味を持つてもらおうと工夫しています。手話歌では、参加者と共演することもあります。最近では手話をテーマとした絵本も出てきているので、より活動の幅が広がってきました。町

内の読書まつりやホテル館イベン

トなどでの実演も行っています。離島ということもあり、メンバーの入れ替わりが多いため、毎年、やり方や進め方のレクチャーに苦労します。しかし、繰り返しすることで新しい気づきもあり、いろいろな意見でより進化した発表ができるようになっていきます。訪問先で、参加者が一緒になって手話をしてくれる姿、終わってから「うちで母さんにやってあげるんだ」と絵本の手話を聞きにくる子どもたちの姿を見ると、この活動をしてよかったと感じます。

活動が続いている理由には、がんばりすぎず、各自の得意分野で活躍できるような配分をすること、みんなが楽しめるものを目指し、妥協も含めた納得ができるまで話しあうことがあげられます。

これからも、絵本を純粹に楽しんで、手話を使った読み聞かせが島内で広がるよう、続けたいと思います。また、サークルメンバーだけではなく、子どもたちも一緒に楽しめる活動を模索し、沖縄の手話、沖縄の昔話などにもチャレンジして高齢者のみなさんにも楽しんでもらえることを目指します。

## NPPOブックスタートオンライン研修会開催へ

### 全国のブックスタート事例、動向をオンラインで学ぶ

NPPOブックスタートは、11月29日(火)に、『ブックスタート全国研修会2022』シニアブック

スのきっかけを確実に届けるために、Zoomを使ったオンライン形式で開催する。

配信内容は以下のとおり。

○講演「絵本は親子のゆりかご」講師 伊藤明美(保育園図書顧問、司書)

○報告「コロナ禍で見えてきたも

## JBby「あしたの本だな」発表

### 本から遠ざけられた子どもたちへ贈る図書リスト

一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBby)は、ブックリスト「あしたの本だな①・②」を作成し、ホームページ上でPDFデータを配布している(印刷物はなし)。

このリストは、少年院や少年鑑別所からの希望を受けて、JBbyが2019年より準備してきたもの。対象は、比較的年齢が高い子ども、および、施設スタッフと

なっている。

「あしたの本だな①」では、さまざまな環境により、本と出逢う機会が少なかった子どもたちが、思わず手に取りたくなるような本を、6つのカテゴリーにわけて選んでいる。表紙がユニークで魅力的な作品が紹介される。「あしたの本だな②」は、少しずつ本のおもしろさがわかってきた子どもたちに向け、じっくり読めて新しい

○トークセッション 参加者からの事前質問をテーマに登壇者が語る

対象は、ブックスタートを実施または実施検討中の自治体職員・ボランティアなど。参加費は無料だが、事前の申し込み(11月14日締め切り)が必要。12月12日(来月2月28日)まで。見逃し配信も予定されている。

参加申し込みは左記QRコード、または公式サイト



(<https://www.bookstart.or.jp/>)より可能。詳細は公式サイトで確認できる。



子どもたちの明日につながる本を紹介

興味があく本が選ばれている。生きた喜び、苦しみ、勇気を感じる本も多い。①②とも、難易度や内容、ジャンルがひとめでわかるようになっている。

## JBbyホームページ

<https://jbby.org/>

## 事務局報告(8月)

- ・1日 文部科学省と次年度「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ(オンライン)
- ・1日 子どもの読書推進会議2022年度会費請求書送付
- ・3日 日本図書普及株式会社と全国優良読書グループ表彰協力依頼
- ・8日 機関紙「読書推進運動」657号入稿
- ・9日 機関紙「読書推進運動」657号入稿
- ・10日 野間読書推進賞選考委員会9月本選考会の案内を送付
- ・11日 16日 事務局休業
- ・18日 機関紙「読書推進運動」657号出来
- ・19日 第76回 読書週間ポスターデザイン決定
- ・19日 第76回 読書週間ポスター入稿
- ・24日 文部科学省へ令和4年度「読書活動推進事業」審査表を提出
- ・29日 野間読書推進賞 第1次選考事業委員会を開催
- ・30日 2023年からの「こどもの読書週間」ポスター制作新体制を決定

## 編集部 & 事務局のひとこと

●スウェットラーナ・アレクシエーヴィチの『チェルノブイリの祈り』(岩波書店)の冒頭「孤独な人間の声」。原発事故直後に防護服もなしに現場で消火作業にあたった消防士の妻の証言で、この本のタイトルを検索エンジンに入力すると、「消防士」と候補が表示されるほど、読む人に強い印象を与えます。

●証言者は事故当時、23歳。結婚したばかりで、夫が大好きでたまらない。その夫が、わずか14日間死に向かう傍ら、寝る間も惜しんでひたすら介抱した記憶を語ります。医者や看護師に、もはや愛する人ではないです。汚染濃度の高い放射性物体なんですよ」と言われても、彼女は離れず、事故前と同様に夫を抱きしめる。

しかし、自分は気がふれていたと言いつつも、夫の容態の変化を、客観的に証言しています。けして事実から目を逸らしてはいないのです。

●彼女の話は、被爆の恐ろしさに加え、愛する人に寄りそいたいという思いの強さが、胸に迫ります。思えば、世界各国の昔話には、魔法や呪いで姿が変わったパートナーを元に戻すため、さまざまな試練をくぐり抜ける物語があります。病や思わぬ災害でパートナーとの残酷な別離を迫られた人たちのやるせなさ、せめて物語では報われるように、語り継がれてきたかのように思えます。

●まもなく、今年の「読書週間」。時代を、国を超えて、語られてきた人々の思いを伝えてくれる、さまざまな一冊への「ありがとう」の声が、全国で聞こえますように。(伸)